



くさか景子の

ちょっ

よろしいですか!

と



7月31日 サザンビーチで津波訓練 避難場所 経路に不安! 課題が見えてきた!

大地震の発生による津波を想定して、県主催の避難訓練が茅ヶ崎市のサザンビーチで実施されました。

地元自主防災組織やライフセーバー、消防、警察、自衛隊、第3管区海上保安部、神奈川県水難救済会など約40機関をはじめ、今回は、海浜利用者に加えて、沿岸住民の参加協力も得た避難訓練でした。航空機やヘリ、船舶も参加し、津波によりさらわれた漂流者をヘリコプターによるつり上げ救助や、船舶や水上バイクで船舶に引き上げる訓練。市内西浜小学校では、避難場所に取り残された沿岸住民を屋上から県警のヘリで救助する訓練も実施されました。



約2,000人の協力参加者による訓練

市は高層の建物(小中学校を含む)17か所のほかに、現在26避難場所としての協定を結んでいます。避難場所のさらなる確保や、避難経路の問題等、避難を体験したことで、課題に気付いた市民は少なくないでしょう。

市の「津波ハザードマップ」には浸水の恐れがある地区の浸水予測図や避難所が載っていますが、具体的な避難経路は記されていません。避難所までの距離が遠く、たどり着くまで時間を要する地域もあれば、指定された避難所を目指す津波に向かうことになり、かえって危険が及ぶ地域もあります。足腰や視力が弱く、素早く避難できないお年寄りや障がい者の存在も忘れてはなりません。

今回は、茅ヶ崎市と避難誘導の協定を結んだ日本サーフィン連盟湘南茅ヶ崎支部も参加しました。鎌倉から提唱された津波警報を知らせる手段として、オレンジフラッグも試されましたが、まだ認知されていないなど、今後の活用が期待されます。

市内の東海道線から南に位置する南北の主要道路の支柱に設置されたカーブミラーに海拔を明示したステッカーが貼られています。茅ヶ崎、藤沢、鎌倉市と寒川町の建設業団体でつくる湘南地域青年部連合会(仮称)が考案したものです。日頃から、散歩しながら、買い物途中で市民が確認するには便利です。

津波対策の見直しを!

東日本大震災での大津波の恐怖を目の当たりにして、沿岸地域の住民や自治体は津波対策を見直す必要性を強く感じています。県では、ハザードマップの改訂、看板の書き換え、指定ビル調査費用として「津波等避難対策支援事業費」3300万を33市町村に対し、今年6月に補正予算を計上しました。

3.11を機に、相模湾沿岸の市町村から再検証の要望を受けて、5月、県では南関東地震による津波浸水予測図の改定に向けて学識者などで構成する「津波浸水想定検討部会」を設置し、技術的見地から現在想定している津波の規模、浸水範囲等について再検証をはじめており、年内には骨格が公表される予定となっています。

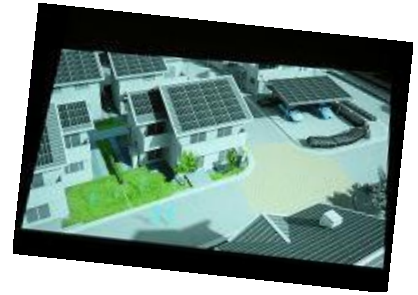


藤沢サステイナブル・スマートタウン構想

— 藤沢パナソニック跡地に持続可能なエコタウンを —

東海道線で大船に向かう途中、パナソニック冷蔵庫工場の広大な跡地に何ができるのかと思って車窓から眺めていらした方は多いでしょう。

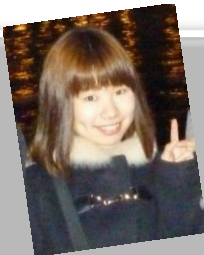
パナソニックは藤沢市と協働して、19ヘクタールの土地に、エコハウス1000戸、3000人の住む新たな街づくりを進めています。各戸に太陽光パネルを設置、電気自動車のカーシェアリングで、CO₂排出量70%削減、生活用水30%削減、生物多様性に配慮した街。企業の持つエネルギー技術を世界に発信、日本初の環境創造の街は、2013年度街開きを目指します。



Fujisawa サステイナブル・スマートタウン構想

県知事が表明している太陽光発電の推進、グリーンイノベーション総合特区構想とも合致しているということで、藤沢市では、県に財政措置などの要望を提案しています。

約600億円の事業費で進める新しい街は、先進モデルとして未来の私たちのお手本になることを願います。



くさか景子のほっとコラム

日下事務所 学生インターン
男女共同参画とジェンダー論を勉強したい！



初めまして！長谷川友見と申します。

この度、くさか景子事務所にて議員インターンシップをさせて頂くこととなりました。くさか議員は被災地へ災害ボランティアに行ったりとすごく行動的で、インターンでも様々な活動に参加させて頂けるのでご楽しみです。

8月から2ヶ月間という短い間ではありますが、貴重な経験だと思うので自分の身をもって政治を勉強し、神奈川のことや茅ヶ崎のことをたくさん知っていこうと思います。よろしくお祈りします！